

# ごらくちょう

Bird of Paradise



発行 NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会 編集 NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 発行日 令和6年5月31日

## 2024年ポートモレスビー情報

伊藤 明德（ポートモレスビー支部長）

ポートモレスビーは毎日暑い日が続いています。長く PNG に滞在された方は、ポートモレスビー側では、雨季が 11 月末に始まり、3 月末から乾季になることをご存じだと思います。しかし、ここ数年は、雨季と乾季の変わり目ははっきりせず雨季が長くなっています。この雨季の長さにも関連して、PNG では、今年は、例年になく大きな出来事が起こっていますので紹介致します。

### ● 自然災害が多発

昨年 12 月より今月まで、海岸地域と山岳地方では豪雨が継続的にあり大きな被害がでました。豪雨による被災した州は、エンガ・南ハイランド・西ハイランド・ジワカ・チンブー・東セピック・マダン・ウエスタンと多くの州に及んでいます。2 月には地震も ESP（東セピック州）を襲いました。豪雨による被害は地滑り、家の水没、農作物が流される、そして、地滑りに巻き込まれ亡くなった方もいます（20 人程度）。国立災害センターの報告では、直接の原因は豪雨ですが、人口増加のために、平地に農耕地を作るために木を切り、またはロギングのため森を破壊したことで大量の雨が流れ出したことも原因としています。世界リスク指標（2021）では、PNG は地震・津波・火山・洪水・干ばつなど）世界で 9 番目にリスクの高い国としています。今回の災害では、JICA の緊急支援物資が直ぐに供与され、ニュージーランド空軍の協力で被災地に配布されました。援助の様子メディアで大きく扱われました。



エンガ州地滑り



東セピック州洪水  
（写真提供：国立災害センター）

### ● 税制改革の混乱に生じた暴動

1 月 10 日に税制改革の混乱の中、大きな市民の暴動が起きました。ポートモレスビーで、給与の減額に対する警察官の大規模な抗議会中に、市内の警察機能が低下した状態を狙い、一般市民が突然強盗となり小型から大型スーパーを狙って物品を強奪しました。16 人以上の死者がでています。PNG ではオポシュニストという言葉がありま

す。何かチャンスがあれば便乗して悪事を働く人を呼びます。今回は、ゴードンズで発生した略奪は、ワイガニ、ゲレフ、バジリ、4 マイルと広がりました。CSR 事業や女性雇用で社会に貢献している PCL グループの Stop & Shop や City Pharmacy もターゲットになり、強奪の上、店舗が燃やされてしまいました。その夜の Facebook 上では、強奪した大量の食料を自慢する写真が溢れていました。1 月 11 日には非常事態宣言されました。残念なことに、略奪をした人を非難する政治家はいませんでした。物価高や政府への不満が起したこと、強盗をした人を責めません。この暴動は、レイ、ココボにも飛火しましたが、マウントハーゲン、州政府が、市民に暴動をしないように市民に訴え何事もなく納まった州もありました。最近では、以前と比較しレイプ事件などの悪質な事件が減り民度が高くなって来たと思っていたのですが大変残念な事件でした。



燃え落ちたワイガニ Stop & Shop



家電を盗み運ぶ車両  
（写真提供：Moa Kakas）

### ● エンガ州での部族間闘争

PNG の 2000 年の教育白書では、児童が学校に通わなくなる理由の一つに部族間闘争による学校の閉鎖が上げられています。この部族間闘争は今なお PNG の大きな問題です。特に、ハイランド地域、ポートモレスビーでのゴイララとタリの人々の闘争も度々起こっています。しかし、エンガ州での部族間闘争は、それらとは別格のレベルの闘争が続いています。2 月の闘争では 17 部族が関わり 64 人が亡くなりました。2023 年 8 月には、150 人が亡くなっています。闘争で使用される銃器は警察や軍が持つ物よりも性能が良いために警察や軍も介入が難しいといわれています。友人のエンガ教員養成校の講師は、彼らの血の中には代々伝わる家族を殺された恨みがあるので、この闘争は直ぐには止めることはできないだろうと言っています。戦いは恨みを膨らめ、ますます終わりが見えない闘争に繋がると想像します。平和な社会が訪れることを祈って止みません。



## ● 日本関連情報

日本政府は、JICA 事業に加え、草の根・人間安全保障無償資金協力や経済社会開発計画で PNG の発展に寄与しています。私が担当しています JICA 高等教育省プロジェクト支援の一環で案件形成に協力した「教員養成校向け ICT 機材供与」案件が採択され、2月19日には、渡邊大使とトカチェンコ外務大臣の間で、無償資金協力「警察車両案件」と合わせて案件の書簡の交換が行われました。教員養成校は各州に分散していますが、ICT 技術を使うことで養成校間を綱いたワークショップや授業研究を行い講師の能力強化が可能となります。また、ICT 機材を使い効率の良い講義も行われることが期待されています。既に我々のプロジェクトでは、毎週、簡易機材で講師と繋がりオンライン研修と教材研究を行っています。機材が供与されることでより効果の高い研修が実施されます。今から新しい機材を使ったワークショップや研修が楽しみです。



署名式典の様子

## ● 石原宏高内閣総理大臣補佐官訪問

4月30日に、総理特使として石原内閣総理大臣補佐官がポートモレスビーを訪れマラベ首相を表敬致しました。表敬では7月に東京で開催される第10回太平洋・島サミット(PALM10)や二国間の関係強化等について意見交換を行いました。夜には、石原補佐官は在留邦人との夕食会を行い二国間関係やパプアニューギニアにおける課題等について

意見交換を行いました。その席に、私も招待され協会と JICA の活動を共有させて頂きました。昨年の、堀井蔵外務副大臣の来 PNG もあり、政府要人が訪問して PNG との関係を強化して下さることに感謝申し上げます。



夕食会にて  
(写真提供：在 PNG 日本大使館)

## ● JICA 50 周年記念に向けて

PNG に対する日本の ODA は、1974 年に実施された無償資金協力事業「国立漁業訓練大学設立計画」から始まりました。今年 2024 年が ODA の 50 周年となります(JICA ホームページ)。私は運良く 1990 年より今日まで PNG で JICA 事業に係わることができました。また、私に限らず多くの方が ODA に関わり PNG の発展に貢献されています。私の周りの PNG の皆さんは日本の支援に大変感謝しています。また、多くカウンターパートや仲間が日本人専門家や協力隊員の方との仕事の経験を活かして重要な仕事に従事しています。これからも ODA が無駄なく期待される分野で日本の良きパートナーである PNG の発展のために使われていくことを節に願っております。

一方で協会は、PNG を大切に思うメンバーの力で草の根での両国の友好のために活動ができればと思っております。9月には、奨学金事業が始まります。宜しくお願い致します。



建設時のプレート  
(写真提供：JICA PNG 事務所)

## 駐日 PNG 大使館情報

## 新規着任の公使の到着のお知らせ

荻原 聖子 (パプアニューギニア大使館 大使秘書)

2024 年 1 月に新規に一等書記官が到着したお知らせは既にこちらのコラムでご紹介いたしました。更に新たに公使が 2024 年 4 月 1 日に日本に到着致しました。これで大使館では大使を含め外交官が 3 名となりました。

名前は Ms. Mgdalene Moi-he (マグダレーン モイヘ) といいます。

ご主人と 17 歳の息子さんと 1 歳のお孫さんの 4 人で 4 月に来日致しました。

2010 年に PNG 外務省に入省し、2012 年から 2017 年までの 5 年間、オーストラリアのブリスベンにてパプアニューギニ



ア総領事を経験され、PNG 外務省では様々な役職を歴任され、主に PNG との二国間協議の Director General の役職を 2017 年から 2021 年を経験されるなど外交経験豊富なパワフルな公使です。既に、太平洋諸国における PALM に向けてのミーティングなど多くの活動をされ精力的に行動されています(写真はミクロネシア大使館にて PALM 関連の会議にて、石原内閣総理大臣補佐官と太平洋諸国大使との写真です)。

今後いろいろな場面で大使と一等書記官と共に皆様にお会いできることを楽しみに致しております。



渡邊 信之（駐 PNG 日本大使）

日本は新緑の美しい季節の頃かと思われます。一年通じて緑の深い PNG ですが、ここ数日、雨の日は減り、乾季を迎えつつあります。以下最近のできごとを御紹介させていただきます。

### 天皇誕生日祝賀レセプション

2月19日に大使公邸にて天皇誕生日祝賀レセプションを開催しました。PNG 政府からは、マラペ首相やトカチェンコ外務大臣をはじめとする要人の方々、また、経済界を含む各界からも多くの方々にご参加いただきました。

大使館からは、PNG における我が国の様々な協力・取組に加え日本文化等についても紹介し、日本と PNG の長年の友好関係を祝う素晴らしい機会となりました。



### PNG 国費留学生の壮行会

3月15日には国費留学生プログラム（大学院レベル）に参加する5名の留学生の壮行会を公邸で開催しました。留学生はそれぞれ日本留学への意気込みを表明するとともに、参加した元国費留学生、JICA の帰国留学生、当地日系企業の方々と親睦を深めました。留学生は日本と PNG の間の架け橋として重要な役割を担っており、帰国後に二国間関係の促進に貢献されておられる方も多数おられます。本プログラムを通じて、日本で学位を取得するのに加え、日本の社会、文化、歴史等についても学び、この経験が留学生の一生の財産になることを願っています。



### 洪水・地滑り被害に対する緊急援助

3月下旬から4月上旬にかけて当地の山岳地域を中心に大規模な洪水及び地滑りが発生し、大きな被害をもたらしました。これに対して4月14日、日本政府は国際協力機構（JICA）を通じて、テント95張、毛布570枚、プラスチックシート10巻、スリーピングパッド570枚、浄水器8台、ポリタンク400個からなる援助物資を供与しました。洪水による家屋の倒壊と畑への浸水は住民の住居と収入源を奪い、また、地滑りにより主要なインフラが寸断されており、PNG 国家災害センター（NDC）は、主な被災地であるハイランド地方の計7州における被災者は9万人に達すると推計しています。被災者に対して心よりお見舞い申し上げるとともに、日本の供与物資が災害対策の一助となり、被災された方々が一日も早く元の生活に戻れることを願っています。



### デボイスメヌ・プライマリー学校校舎整備計画引渡式

4月11日、日本政府の「草の根無償資金協力」によりセントラル州デボイスメヌ・プライマリー学校に寄贈した校舎1棟（4教室、2授業準備室）の引渡式が開催されました。生徒数の急増により、これまで過密状態で授業を実施していましたが、新築された校舎により生徒が授業に集中できる学習環境が整いました。青空の下で実施された引渡式には、学校関係者や州教育委員会関係者、地域住民等1,000人以上が出席し、新校舎の完成を祝い日本への感謝を表明する盛大な式典となりました。





日本・パプアニューギニア協会会員のみなさま、大変お世話になっております、JX石油開発株式会社です。2012年に当協会入会に際し会社紹介させて頂きましたが、改めてご紹介させて頂けること大変光栄に存じます。

当社の入会当時の事業状況を振り返りますと、2009年に開発移行を決定したPNG LNG事業が2014年の初出荷に向け、パプアニューギニア国政府・日本大使館を始めとする関係各所の厚いご支援のもと、パートナー企業と共に努力して参った頃でした。何も無いところに整地から始め、液化プラントを建設致しましたが、そのPNG LNG事業も今年で生産開始10周年を迎え、LNGをパプアニューギニアから日本を始め世界各地に安定的に供給しております。



遡ると当社とパプアニューギニアのご縁は、1990年代のパプアニューギニアのハイランド地区での探鉱事業に始まります。高地におけるジャングル内での地下構造の調査は、数々の技術的困難に直面しましたが、幸運にもクツブ・モラン



等の油・ガス田を発見することができ、現在においても生産を継続しており、パプアニューギニアへの経済貢献の一翼を担っております。また、2023年にはパプアニューギニアにおける第2のLNGプロジェクト、Papua LNG事業への参画も果たし、開発移行に向け鋭意検討を進めております。

パプアニューギニアへの貢献としては、2024年4月26日には首都ポートモレスビーから40km離れた場所にある、ソゲリ国立高校の日本語学習センターに対してEla Motors様、PNG太平洋セメント様と共に寄付を行いました。当センターは、パプアニューギニアで唯一の日本語教育機関であり、日本から派遣された教師が日本語の教育に加えて日本語教師養成も行っています。



気候変動問題が全世界の共通の課題となり、脱炭素、カーボンニュートラルへの動きが急加速している中、当社では「基盤事業」である石油・天然ガスの開発・生産事業を軸としつつ、環境対応事業を「成長事業」としてもう一つの軸とする「二軸経営」(Two-pronged Approach)を標榜しております。地道に足元の歩みを止めることなく、次の10年、20年に向けて新しい挑戦を継続してまいります。

## 事務局からのお知らせ

ごらくちょう83号をお届けいたしました。総会資料を同封させていただき都合で発行を少々延ばさせていただきました。

協会も任意団体としての設立総会が2002年12月10日に開催され、その後NPO法人として2004年2月24日より活動を継続しております。

本年は設立22年、NPO法人として20年目の年を迎えることができました。

これまでに、ごらくちょうの発行は本号で83号を迎え、メールマガジンも2012年の初号から365号を発行してまいりました。

活動もPNGの学生への奨学金の支給、PNG軍楽隊創設への支援、PNGでの災害への寄付、親善ツアーの実施、PNGを語る会の開催(TOKTOK会)、PNGから来日された方々の歓迎会など多岐にわたっております。

会長も初代故谷口誠氏から山下勝男元PNG大使、そして現在は橋廣治元PNG大使と引き継がれ現在も皆様のご協力の下、役員一同ボランティ

アで活動を継続しております。

現在当協会の課題として会員の高齢化があります。今までの皆さんの両国関係における経験や見識を次の世代に伝えていくことも、当協会の重要な責務と考えております。

会員の皆様におかれましては、法人会員、個人会員へのご参加を広くお声をかけいただけましたらありがたく存じます。

本年の総会が6月27日に開催されます。多くの方々にご参加いただき今後もますます協会を盛り上げていただけましたら幸いです。

## 日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員：24社 ◆ 個人会員：93名 (2024年5月31日現在)

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会 事務局 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン(株)内  
TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

**申し込み方法** 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

**年会費** 個人会員6,000円 家族会員3,000円 法人会員60,000円 学生、PNG人1,000円

**会費受付** 郵便振替口座をご利用ください。

**口座番号** 00140-2-277582

**加入者名** トクヒ)ニホン パプアニューギニアキョウカイ